

現代社会が欲するもの

主将・徳田隆一

私は「探検」という言葉より「冒険」という言葉が好きだ。なぜなら冒険から感じられるニュアンスがすべての人間性を包括するからだ。

人類は二大別すると冒険族と非冒険族に分かれると「冒険と日本人」の筆者本田勝一氏は述べている。マロリーに「なぜエヴェレストに登るのか」と質問した人は、代表的な非冒険族で「なぜならそこにあるから」と答えた彼は冒険族である。もう少し詳しく言うと、地球の自転と寸刻たがわず歩調を合わす人は前者で、未知なるものや出来事に対し自らを賭け得る精神を持つ人は後者と言えよう。

同様な事が政治的な分野にも現われてくる。「大学内で暴れ廻つて何の変革があるのか」「街頭をデモ行進して何の効果があるのか」「破壊だけで建設ということが全然ないのではないか」学生運動の活動家には皆この手の質問をする。自らにマイナスと感ずる事は何一つしようとはしない。悪路を直しながら歩こうとはせずアスファルトになるまで待つている。しかしながら我々現代人は飢えている。目の前に置かれたリンゴが腐っているか否かは、我々が食べなければわからないのである。リンゴの事をとやかく言っている間がないかもしれないのだ。冒険族と非冒険族の差は、顕著に現われてきている。というより、非冒険族が冒険族を、全然尊重しない社会になつてきているのではないか。

それにしてもこの現代を人は、「人間性不在の時代」とも「断絶の時代」とも言う。コンピュー

ターが競馬の予想すらする。将来はすべてがコンピューターによつてなされるであろう。進学、試験、就職、結婚、死亡時期までもが…。「人間疎外だ！」と言つて騒がれた時代はとつくに過ぎ去つてしまつている。次にやつてくる怪物に対して我々は一対何をなすべきなのか……。大学紛争、教師や高校生の造反、労働者のスト、町中あふれる街頭デモ。一体彼らは何を要求しているのか？私にはわからない。しかしながらたつた一つ共通して理解できることがある。「人間として生きたい」言葉をかえて言うなら「生きるという事を感じたい」という事ではないのか。

自分を人間と実感出来ないこと程、悲劇な事はないだろう。我々冒険族でありたいと願う者は、この失われたものを現代人に与えなければいけない。いや現代人すべてが、この失われたものを取り返さなければいけないのではないか。

そのすべとして、原始社会にその再生を求めるとも一つであろう。

デモに加わるのも一つであろう。友と語らうのも一つであろう。

そのような中で我々は未来を勝ち取つて生きなければならぬ。人間として、生を感じたいと願うものとして、冒険族には、きつとこの失われたものが与えられると私は信ずるのである。

(法学部3回生)